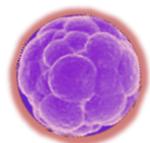


がん幹細胞に発現するRPN2を標的とした核酸医薬臨床応用のファーストインマン早期臨床試験事業計画を中央病院と共に開始

標的分子: **RPN2**

基礎研究

がん幹細胞
標的治療

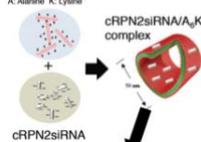
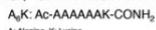


RPN2 siRNA

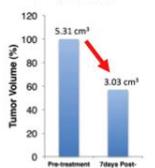
前臨床研究



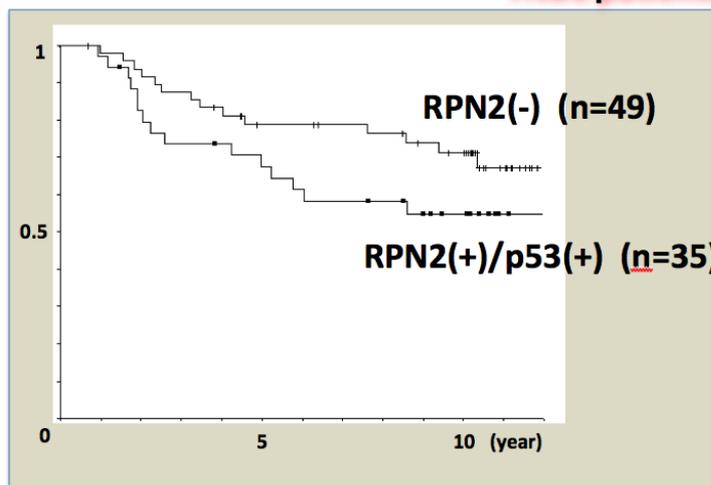
イヌの自然発生乳腺腫瘍による前臨床試験では、cRPN2siRNAの腫瘍縮小効果を確認



cRPN2/A6K peptide複合体は腫瘍のアポトーシスを誘導



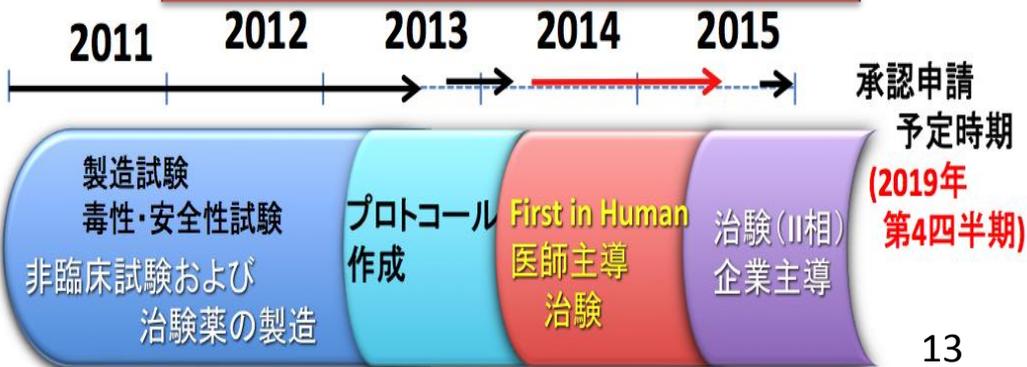
• Overall survival TNBC patients



トリプルネガティブ乳がん患者を対象

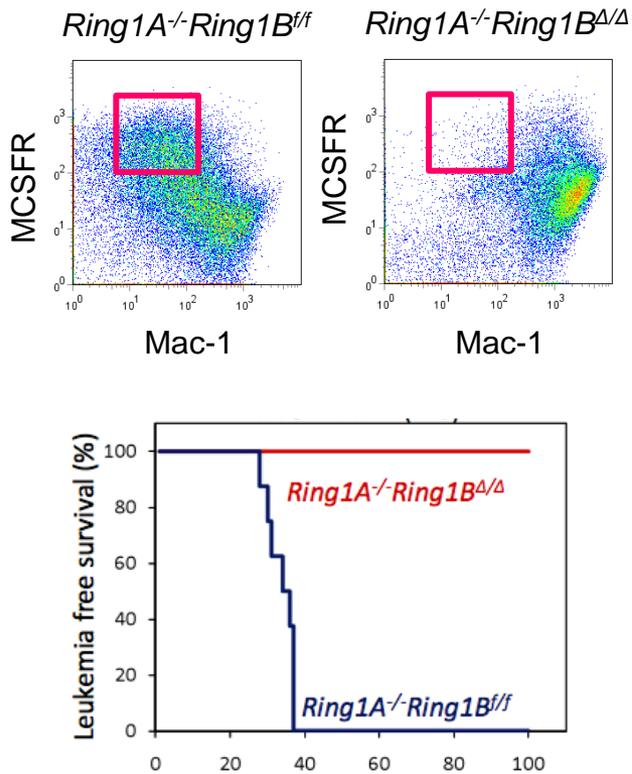
研究所と中央病院の連携による治療開発

臨床応用のロードマップ

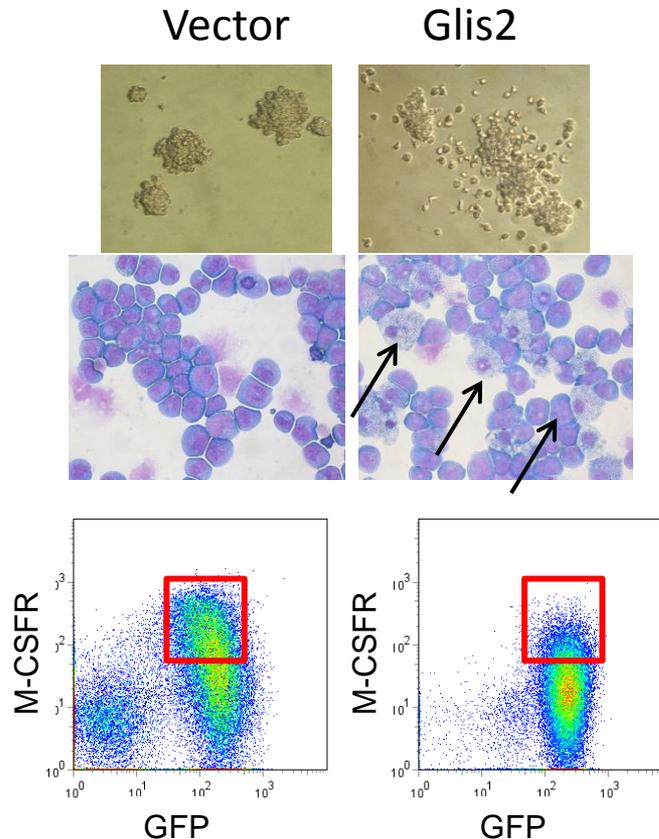


新規がん幹細胞制御因子SCIFの同定

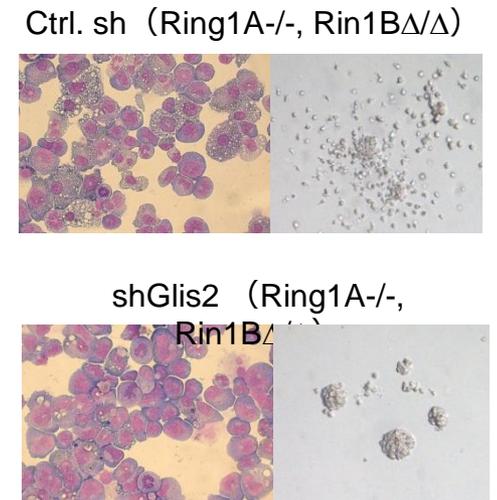
(A) Ring1A/1B欠損による幹細胞性の喪失と白血病の発症抑制



(B) SCIFの過剰発現による分化誘導



(C) SCIF発現抑制によるがん幹細胞性の回復・維持



急性骨髄性白血病の幹細胞ではM-CSFRの発現が高いが、幹細胞の維持に必須なRing1Aおよび1B遺伝子を欠損するとがん幹細胞が消失し(図A上)、白血病を発症しなかった(図A下)。Ring1の標的遺伝子であるGlis2(SCIF)を過剰発現すると、幹細胞の分化が誘導され(図B上)、がん幹細胞が消失した(図B下)。逆に、Glis2の発現抑制により幹細胞性が回復・維持されることから(図C)、Glis2が白血病がん幹細胞の制御因子として機能していることが分かった。

網羅的遺伝子解析技術を用いた抗EGFR抗体薬治療効果予測

バイオマーカーの探索研究に関する多施設共同研究 (BREAC試験)

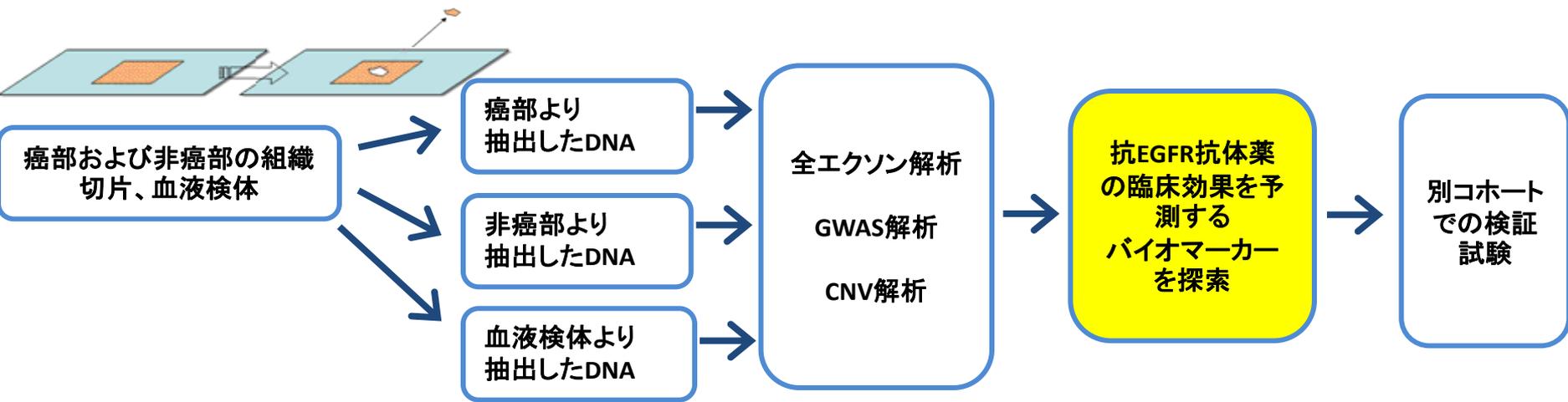
治療前

治療後



著効例

50 症例



無効例

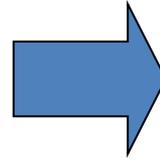
50 症例



糖尿病や心臓病があっても「がん難民」にしない 総合内科の拡充へ（平成23年度）

内科慢性疾患の増加
(糖尿病、心臓病、腎臓病など)

例:5人に1人が糖尿病の時代



がん以外の内科疾患を
合併したがん患者の増加

がんセンター
ゆえの弱点を
克服

内科疾患

最適ながん治療への障害



がん治療



がん治療による悪化・誘発

内科疾患の包括的ケア

総合内科

より安全ながん治療

- 糖尿病内科:2名(平成23年4月より1名増員)
- 循環器内科:1名(平成24年4月からは2名体制へ)
- 腎臓内科:1名(平成23年7月より)→平成24年度前期に透析室開設へ準備中
- 感染症内科:1名(平成23年10月より)
- 一般消化器内科:1名

国立がん研究センターにおける緩和ケアの取り組みと成果

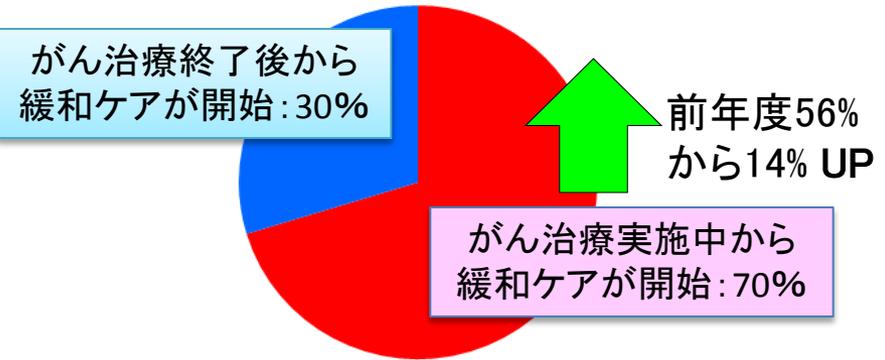
緩和ケアチームの診療実績

入院患者	2009年度	2010年度	2011年度
中央病院	773件	815件	773件
東病院	758件	720件	754件
合計	1,531件	1,535件	1,527件



緩和ケアチームの関わった症例は1,527例であり、平成23年度計画目標(1,200件以上)を大きく上回り達成同時に中期計画目標(1,500件以上)も上回った。

緩和ケアチームの介入開始時期



がん治療実施中から緩和ケアが開始された割合が約7割を占めるなど早期から緩和ケアを意識した取り組みを実施した

レジデントの在宅研修実施



全てのレジデントに対して在宅緩和医療研修を実施した

多職種カンファレンスの実施



多職種によるカンファレンスの実施(年間40回程度)

地域医療機関との連携促進



地域の医療機関等との連携促進を図るため在宅緩和ケア連携カンファレンス等を開催(計9回開催、1173名が参加)18

がん患者・家族総合支援センター

地域に開かれた院外型相談支援センター



柏の葉料理教室 月に2回
のべ164名が利用



サポートグループ 月2回
のべ122名が参加
グリーフケア 月2回
のべ 59名が参加
がん哲学外来 月1回
のべ 18名が相談に



相談支援 週5日
のべ575件



地域緩和ケア症例検討会等の企画・運営

データは2011/04/01-2012/03/31